

大会記念企画資料展

発達保障思想の原点と展望

—糸賀一雄のラストメッセージ「この子らを世の光に」—

◇資料展の概要

日 時：2010年9月11日(土) および12日(日) 9:00~18:00 (終日)

資料提供・展示協力：社会福祉法人大木会（滋賀県湖南市），滋賀県立近江学園

小講演：石野美也子（京都文教短期大学）

準備・運営：長崎純子（児童デイサービス和），棚橋彩香（京都大学大学院），張 貞京（京都文教短期大学）

◇企画の趣旨

糸賀一雄（1914-1968）は，京都大学文学部卒業後，小学校の代用教員を経て滋賀県の公務員として勤めた。そして，1946年に戦災孤児や障害のある児童たちを受けとめる近江学園を設立し，子どもたちの発達を丁寧にとらえた療育実践を展開した。第二次世界大戦後，わが国の社会保障・発達保障の礎を築いた人物の一人と言われている。

1947年に，「児童福祉法」が制定され，翌1948年に施行されて，わが国の公的保育・療育制度がスタートした。この法律ができて，わが国には多くの公的な児童養護施設が誕生した。近江学園は，島田療育園（小林提樹）や秋津療育園（草野熊吉）などとともに，戦後の公的な社会福祉施設の先駆けとなった施設の一つである。この資料展では，糸賀の1930年代の学生時代から1960年代に近江学園で活躍した時期の足跡をたどり，糸賀を中心とする近江学園グループの療育実践，そして現在の最先端の療育・発達研究に通じる重要資料を展示した。また，糸賀一雄の社会実践活動の展開過程，および重要な展示資料に関して，石野美也子氏（京都文教短期大学）より小講演を受けた。

大会記念企画シンポジウム

発達保障論の成り立ち・現在・展望

—近江学園における実践と研究の系譜から—

◇シンポジウムの概要

日 時：2010年9月11日(土) 9:15~11:15

基調報告：

- 1) 高谷 清（第一びわこ学園・前園長，現びわこ学園医療福祉センター草津）「糸賀一雄の魂と思想」
- 2) 加藤直樹（立命館大学，きょうされん滋賀支部理事長）「庇護授産所構想をめぐって」
- 3) 森本 創（近江学園地域支援相談室専門員）「近江学園の現状と課題」

指定討論：

- 1) 齋藤 昭（社会福祉法人大木会理事長）「発達保障論がどのような時代背景の中で形づくられてきたか」
- 2) 田中真介（京都大学）「可逆操作の高次化における階層・段階理論の研究と発達保障論の形成」

企画・司会：張 貞京（京都文教短期大学）

準備・運営：長崎純子（児童デイサービス和），岸本栄嗣（京都造形芸術大学），棚橋彩香（京都大学大学院）